

(第三種郵便物認可)

安全性、効率化に威力

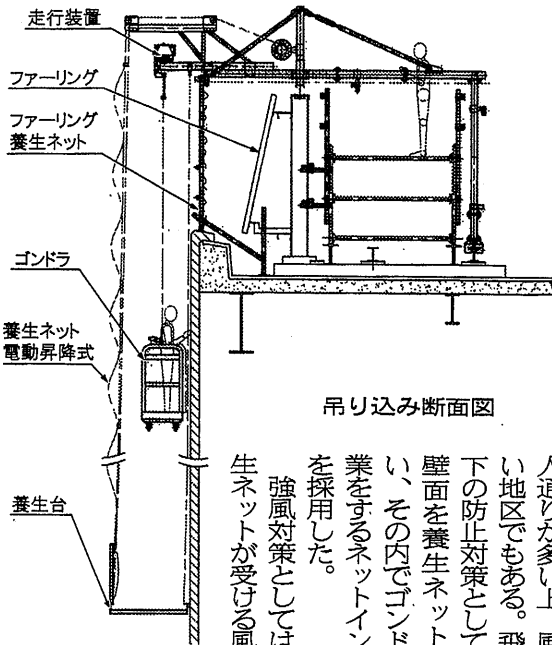
日綜ゴンドラのネットイン工法
鹿島、高層ビル改修で採用

鹿島が手がけている高効率化にも役立っている。層ビルのリニューアル工に、日綜ゴンドラの長尺ゴンドラ、養生ネットで構成するネットイン工法が採用されている。安千代田区「II写真II」で、全性だけでなく、施工の高さが92層の高層ビルの

ため、足場を組めば自重を支えることができないことから、ゴンドラを使って外壁工事を施工している。現場は、JRと地下鉄の駅に近接しているため、人通りが多い上、風が強い地区でもある。飛来落下の防止対策として、外壁面を養生ネットで覆い、その内でゴンドラ作業をするネットイン工法を採用した。

強風対策としては、養生ネットが受ける風圧力を軽減するため、ビル全体を覆うのではなく、上半分が終われば下半分に移る方法を取っている。また、強風時には養生ネットを電動で降ろせるようにしている。

1面に2台のゴンドラがあるため、タイルの補修、シール材の交換、クリーニングなど工程に応じて柔軟に作業ができる。屋上は、外装の目隠しとなる鋼製のファリングを全周に設置しているため、ゴンドラの吊り元アームはこれをまたぐように据え付けている。



吊り込み断面図



西側の2面で計4台が稼働している。作業がほぼ終了したため、17日からゴンドラの解体に着手する。鹿島の佐々木秀孝所長は、「居ながら施工のため、こちらのペースで作業ができない。入居者と打ち合わせをしながら施工している」と話している。日綜ゴンドラの鈴木田駿河台4-3。

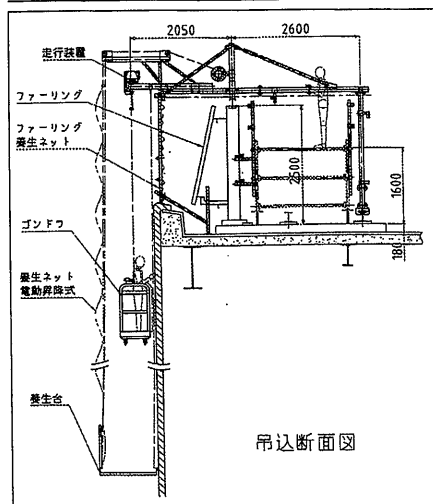
規模はSRC・RC造地下3階地上22階建て塔屋1層延べ4万4052平方メートル。工期は05年3月から08年3月まで。施工場所は東京都千代田区神田駿河台4-3。

無駄なく外壁改修

長尺
ゴンドラ 養生ネット内自在移動

島
鹿 日綜ゴンドラ

鹿島は、東京都千代田区で施工を進める「新お茶の水ビルディング総合リニューアル工事」の外壁改修に、長尺ゴンドラを活用した新たな工法を初めて採用した。日綜ゴンドラの「ネットイン工法」を適用したもので、建物外壁を覆った養生ネット内に長尺ゴンドラ2基を配置し、上下左右方向に自由に位置を変えながら効率的に補修できる



のが特徴。同工事での採用を機に、日綜ゴンドラは高層ビル対応の外壁改修工法として営業活動を

積極的に行う。

新お茶の水ビルは、SRC・RC造地下3階地上22階建て延べ4万4052平方メートル規模の店舗とオフィスが混在する複合ビルで、高さは92メートル。築23年が経過し、内外装に老朽化が目立ち始めたため、鹿島が事業主から全面改修工事を受注し、04年からテナントが入居したままの居ながら施工に着手した。外壁改修は昨

年8月から始めた。ビルはJR御茶ノ水駅前に位置し、人通りが多く、1階に店舗が入居している。このため、外壁改修では施工中の資材や塗料などの飛散落下防止を最優先に考慮し、外壁面全体を養生ネットで覆い、その中でゴンドラ作業を行えるネットイン工法の導入を決めた。ゴンドラの吊り元アー

ムは、建物屋上部の設備機器類を隠すための鋼製ファーリング(目隠し板)が全周にわたって配置されていたため、これらを傷つけないように跳ね出す構造とした。使用するゴンドラは作業の安全性を確保した。外壁改修工事は今週末で終了し、他の改修工事に移る。

下左右に電動で稼働するモノレール型ゴンドラ(長さ7メートル、2基を一組とし、建物の2面にそれぞれ配置して外壁コーキング・タイル補修・屋上外周を1台のゴンドラで覆って施工する方法に比べ、壁の損傷度合いに応じて各ゴンドラがそれぞれのパースで改修できるため、工事の無駄がない。今回の工事では養生ネットが受ける風圧力を軽減するため、建物の上半分と下半分を区分けして施工。強風時には養生ネットを巻き下げる自動昇降装置も完備し、改修作業の安全性を確保した。外壁改修工事は今週末で終了し、他の改修工事に移る。

日刊建設産業新聞

発行所

日刊建設産業新聞社

本社 東京都板橋区板橋1-48-9

〒173-8710 電話 03(3961)1691(代表)

ファクス 03(3961)2251

(http://www.kensan-news.com/)

支社

大阪、神奈川、九州、広島、東北、長野

支局

埼玉、中部、富山、神戸、岡山

© 日刊建設産業新聞社

2006

日綜ゴンドラ『ネットイン工法』

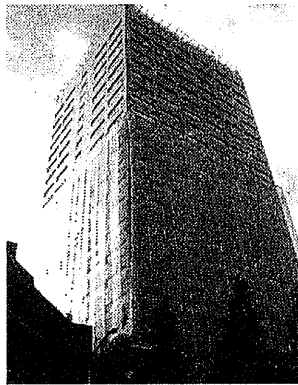
新お茶の水ビル改修で本格採用

鹿島リニュー
ーアル事業部

東京のJR御茶ノ水駅
前にある地上22階、地下
3階(地上92m)の新お
茶の水ビルで鹿島リニ
ューアル事業部がいま、大
規模なリニューアル工事
を実施している。同ビル
は、同社の施工により23
年前に建設された。改修
工事の中身はファンコイ
ル配管の撤去・新設、ト
イレの新装、受変電設備
の更新を中心に、外壁、
外構、冷温水配管、幹線
・分電盤・動力盤、中央

監視設備の更新及び、ご
み処理装置、中水設備更
新などで、店舗や事務室
等を含め、活かしている建
物“の中での工事となる
ため、連日、慎重な作業
が進められている。

この改修工事の一環と
して、外壁のリニューア
ルに日綜ゴンドラ(鈴木
則夫社長)のネットイン
タイプのモノレール型長
尺ゴンドラ(FGW70-
V&H)計4基が設置さ
れ、強風にあおられやす
い場所にもかかわら
ず工期通りの順調な仕上
がりを見せている。



工事が進む新お茶の水ビル

日綜ゴンドラ
の『ネットイン
工法』は、屋上

部の全周に高さ2・5m
のファールリング(外壁の
目隠し)が設置してある
ため、ゴンドラ吊元アー
ムをここからハネ出す構
造とし、外壁面全体を養
生ネットで覆うことから
この名が付けられた。ゴ
ンドラは上下左右に走行
し、作業効率を高める。
養生ネットはまた電動に
より、強風時には下に降
ろせる構造となってお
り、安全にも万全の対策
がとられている。日綜ゴ
ンドラでは今後、各シリ
ーズでの実績を上げ、工
事関係者が安全で安心感
のある作業が行えるよ
う、更に優れた商品の開
発に力を注いでゆきたい
としている。

建通新聞

東京

発行所 建通新聞社

首都圏本部
東京都港区新橋1-17-2
〒105-0004 電話(03)3504-3551

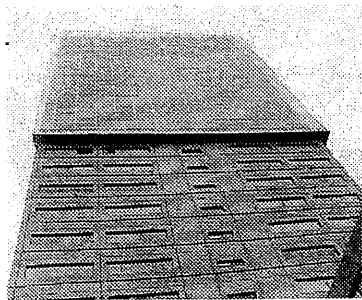
葛飾支局 電話(03)5680-8611

多摩支局 電話(042)527-7291

<http://www.kentsu.co.jp/>

日綜ゴンドラ

新御茶ノ水ビル改修で
「ネットイン工法」初採用



●厳しい施工条件クリア

リング塗装。新御茶ノ水ビルは、22階建てで高さが92.4mあるため風対策が確実であること、建物があると、建物が

することなどの施工に当たっての基本条件があり、この条件をクリアしネット工法が採用された。

鹿島リニール事業部の佐々木秀孝所長は「雨、風の強い場所だが、工事は工程通り進んでいる」と話し、また高柳宏明工事課長も「テナントが入っている、いわゆる生きた建物の中での作業ということで細心の注意を払っている」と述べた。

日綜ゴンドラ(中央区日本橋蛸殻町1ノ10ノ1 鈴木則夫社長)のネットイン工法が、JR御茶ノ水駅前にある「新御茶ノ水ビルディング総合リニール工事」(鹿島リニール事業部施工)で初めて採用された。写真。

同社が担当したのは、外壁改修、外壁コーキング、タイル補修、屋上部ファ

駅前に位置しているため、地上部は人通りが多く、そのため飛散落下防止対策が確実であること、屋上部は全周にわたって高さ2.5mのファールリング(目隠し)を設けているため、ゴンドラ吊元アームはファールリングの上からはね出す構造とすること、ゴンドラは作業効率を高めるため、モノレール型(横走行式)仕様と

日綜ゴンドラでは、今後も高層ビルでのリニール需要の拡大が見込まれることから、同社のゴンドラシリーズの実績をあげ、工事関係者が安全で安心感のある作業を行えるよう営業活動していく方針。

◇問い合わせ先「日綜ゴンドラ」03(3249)0881

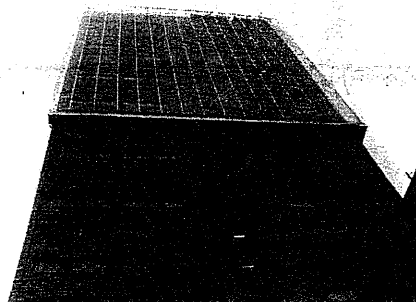
日綜ゴンドラ ネットイン工法

ビル改修工事に初採用

大手軽仮設業者、日綜産業(本社=東京都=)のグループ企業、

日綜ゴンドラ(本社=東京都中央区、鈴木則夫社長)は、同社のネットイン工法が「新御茶ノ水ビルディング総合リニューアル工事」(施工=鹿島建設)で初採用された。

同現場は、東京都千



初採用のネットイン工法

ネットイン工法は、高層棟(22階)の外壁改修で、外壁コーキング・タイル補修、屋上部ファールリグ塗装を行う。モノレール型長尺ゴンドラを合計4台採用(7段タイプを片面2基ずつ設置)。壁面全体をネット養生している。

代田区神田駿河台で行っているもので、屋上や外壁、外構工事をはじめ、冷温水配管更新に伴う工事など、建築全般で更新を実施。工期は05年3月から08年3月末で、ゴンドラ使用期間は05年8月から06年3月となっている。ネットイン工法は高層棟(22階)の外壁改修で、外壁コーキング・タイル補修、屋上部ファールリグ塗装を行う。モノレール型長尺ゴンドラを合計4台採用(7段タイプを片面2基ずつ設置)。壁面全体をネット養生している。この中でゴンドラ作業を行う工法。同工法は、養生ネットが受ける風圧力を軽減するため、建築物の上半分と下半分を工区分ける。養生ネットは電動昇降式とし、ファールリグ(目隠し部分)内側に3Sシステム足場を連続的に設置し、吊元アームの設置工事および、設置後のメンテナンスを安全に実施できるようにした。

現場周辺はビル風などが強く吹き、風対策や飛散落下防止対策が確実な工法であることなどの条件で、ネットイン工法が採用された。

3月15日

2006年
(平成18年)

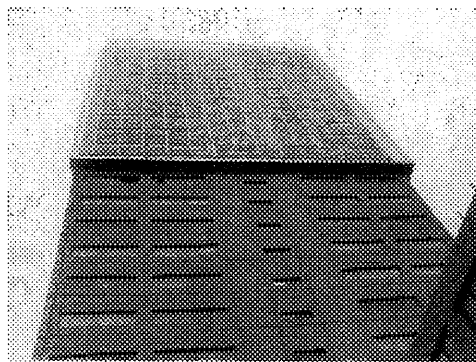
水曜日

第16104号(日刊)

土、日曜・祝日は休刊

Metal & Technology

鉄鋼新聞



新工法で工事中的の高層ビル

層棟(地上22階・高さ92.2m)

新工法で工事中的の高層ビル
所作業時の飛散防止性能などを向上させたゴンドラ工法「ネットイン工法」が初採用された。

の外壁を改修するもの。高さの関係で、通常の枠組み足場が採用できないため、長さ7mの長尺ゴンドラを2基組み合わせ、壁全体をネット養生する同工法を採用したもの。
使用期間は210日間、養生ネットは強風時に迅速に降ろせるように電動昇降式としている。

日綜ゴンドラ

飛散防止の「ネットイン工法」

都内ビル工事で初採用

日綜産業のグループ会社で高層ビル向けの軽仮設資材のレンタルなどを行う日綜ゴンドラ(本社 合リニューアル工事
・東京都中央区、社長 鈴木則夫氏)は、東京・千代田区の新御茶ノ水ビルディング・総